４．インドの詩型とチベットの詩型

　チベット語の詩は「４＋５」あるいは「４＋３」なのですが、では、その元になったサンスクリットの詩はどうかというと、「８＋８」で、形がまったく違うんです。たとえば, 『中論』24章40偈は、サンスクリットでは次のようです。

yah prat?tya-samutpadam pa?yati-idam sa pa?yati|
duhkham samudayam ca-iva nirodham m?rgam eva ca||

縁起を見たる者は見るべし｜
苦・集・滅とそのための道｜

　これがチベット語訳だと次のようになります。

???????????????????????????????
???????????????????????????
??????????????????????????
????????????????????????

かん　ぎ　てん　ちん　でル　ぱる　ちゅん｜
とん　わ　で　に　どぅク　にぇル　たん｜
くん　ちゅん　たん　に　ごク　ぱ　たん｜
らむ　に　て　たク　とん　わ　いん｜

　なんだか、音読すると、ずいぶん違う感じがします。それにしても、チベット人は、自分たちの伝統的な詩型

の中にサンスクリットの韻文を落とし込んだことがわかります